

住友化学 News Release

2022年9月21日

自動車分野のマテリアルリサイクル事業化に向けたパイロット設備導入へ ～使用済み自動車を利用した廃プラスチック再資源化の取り組み加速～

住友化学は、このたび、使用済みの自動車から得られる廃プラスチックを再資源化するマテリアルリサイクルの事業化に向け、パイロット設備を導入することといたしました。2023年度中に顧客向けにサンプル提供を開始し、自動車分野のリサイクルプラスチックの商業生産を目指した取り組みを加速させていきます。

日本では年間約300万台の自動車が解体処理されていますが、バンパーや内装材などのプラスチックは解体後の分別や異物の除去が難しく、マテリアルリサイクルを行う上で大きな課題となっています。一方、欧州では多くの自動車メーカーが新型車に一定の比率でリサイクル製品を採用するなどプラスチック資源循環の取り組みが進んでおり、日本でも同様の動きが広がることが予想されます。

こうした中、住友化学は、長年培ってきたプラスチックの製造技術を生かし、使用済み自動車から得られる廃プラスチックを用いてポリプロピレンコンパウンドを製造する新たなプロセスを構築することといたしました。そのため、廃プラスチックの種類や特性に応じて高精度な選別や異物除去などを一貫して行う設備を導入し、今後、自動車向けに高品質なリサイクルプラスチックの商業生産を目指します。

住友化学は、マテリアルリサイクルの事業化を目指して、総合環境企業であるTREホールディングス傘下のリバーホールディングス株式会社と21年6月から業務提携に向けた検討を開始し、これまでに両社で一貫した選別工程の最適化や環境負荷評価などに取り組んできました。今回のプロセス構築は、同社から提供を受けた廃プラスチックを利用して行い、当社は、サーキュラーエコノミーの実現に向けて「静脈産業」との連携をさらに深化させていきます。

住友化学は、経営として取り組む重要課題の一つに環境負荷低減への貢献を掲げ、マテリアルリサイクルなどプラスチックの資源循環に取り組んでいます。これからも、さまざまなステークホルダーと連携することで、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

<ご参考>

2021年6月9日付ニュースリリース「リバーホールディングスと業務提携に向けた検討を開始」

<https://www.sumitomo-chem.co.jp/news/detail/20210609.html>

以上